

レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 第6回交流会 活動報告書

日時：2019年4月13日 13:30～16:00

場所：京都府立医科大学臨床講義棟

内容：医師の講話とグループワーク

参加者：47人

京都での交流会は2年目を迎えました。1年目を振り返り、患者さんやご家族に何を提供したらよいか考えてみました。まずは、レビー小体型認知症とはどのような病気なのか、それを体と心で感じとられることが、何をすべきかにつながるのではないかということになりました。そこで、第6回交流会では、レビー小体型認知症の基礎講座と相談内容で多い、睡眠障害をテーマに交流会を行いました。以下にその内容（一部）を報告いたします。ボランティアでの活動ではあまり行き届かないところもありますが、参加いただいた方々に少しでも参加してよかったですと思っていただける交流会となるよう今後も努力していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

➤ 講話①テーマ「レビー小体型認知症の診断と治療」

講師：京都府立医科大学大学院医学研究科神経内科学 水野俊樹先生

基礎講座として、レビー小体型認知症の診断の根拠として、レビー小体の画像や臨床診断基準のお話、次に、症状として幻視、パーキンソンニズム、睡眠時の異常行動、自律神経症状、抑うつ症状などについて、1つずつ説明がありました。そして、介護の基本として、適切な薬物治療、経過に沿った適切な介護、転倒予防などのお話でした。

* 一度講義していただいた内容でしたが、繰り返し聞くことで理解が深まるように思われました。

➤ 講話②テーマ「レビー小体型認知症と睡眠」

講師：京都大学医学研究科脳機能総合研究センター 石井徹先生

なぜ、眠くなるのかその機序、レム睡眠行動障害について、夢なのか幻視なのかについて、「おやすみなさいフランス」の絵本を用いながら、また事例から説明していただきました。そしてどうすれば良くなるのかについて、病院ではできない大切なこととして、個々の睡眠覚醒リズムを知ること、リズムと症状の関連を知る、生活リズムを生み出すとお話され、睡眠日誌をつけることを勧められました。

➤ 交流会

3家族と医師、ケア専門職が1グループとなり、概ね8～10名、5グループで交流会をしました。参加者の質問としては、信頼できる医師に出会えないことで適切な治療が受けられていないこと、患者に当たってしまうことの後悔、薬の調整、寒暖調整などが話し合われました。